HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道における環境省「エコチル調査」に関する意識調査と広報活動の課題
Author(s)	荒木, 敦子; 尾西, 奈江; 中瀬, 督久 他
Citation	北海道公衆衛生学雑誌, 26(2), 125-132
Issue Date	2012
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52816
Type	journal article
File Information	2012eco.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

1　北海道における環境省「エコチル調査」に関する意識調査と広報活動の課題

2

3　荒木敦子[1)]、尾西奈江[2)]、中瀬督久[2)]、伊藤善也[3)]、西條泰明[4)]、池野多美子[1)]、安住薫

4　[1)]、土川陽子[1)]、宮下ちひろ[1)]、伊藤佐智子[1)]、岸玲子[1)]、エコチル調査北海道ユニット

5　センター事務局[1)]

6　[1)]北海道大学環境健康科学研究教育センター、[2)]北海道新聞社広告局、[3)]日本赤十字北

7　海道看護大学臨床医学領域、[4)]旭川医科大学健康科学講座

8

9　図：3

10　表：4

11　写真：0

12　希望する原稿の種類：資料

13

14　連絡先：荒木敦子

15　〒003-0001

16　北海道札幌市北区北 12 条西 7 丁目

17　北海道大学　環境健康科学研究教育センター

18　TEL：011-706-4748

19　Fax：011-706-4725

20　E-mail：AAraki@cehs.hokudai.ac.jp

連絡事項：とくになし

要　旨

環境省「エコチル調査」は、環境、特に化学物質の健康への影響を明らかにする全国プロジェクトの出生前向きコーホート研究で、北海道では札幌、旭川、北見の 3 地区で調査を進めている。本報告はエコチル調査に対する北海道民の意識調査を実施し、今後の広報活動の課題について検討する。意識調査は、集中的に広報展開を行った前後の平成 24 年 3 月と 4 月の 2 回、北海道新聞情報研究所が実施した。対象は Doshin インターネットモニターに登録する各回 850 人の 2 つのパネルである。回収率は 1 回目 79.8%、2 回目 79.6%。1 回目の「エコチル調査」認知は 14.4%だったが、2 回目は 31.9%に向上した。この間に実施した新聞をはじめとしたマスメディアへの PR 広告の効果があったといえる。今後はエコチル調査を啓発しつつ、調査の進捗状況など得られた成果を開示していくことが、調査への関心を持続させるための課題といえる。

キーワード

エコチル調査

出生コーホート

環境

子ども

意識調査

Ⅰ．緒言

１．環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査)」について

近年、化学物質等の環境要因による子どもの成長や発達に及ぼす影響、特に妊娠中の胎児期曝露による影響に対して世界的に関心が高まっている[1)]。そこで、環境省は「子どもの健康と環境に関する全国調査（以下エコチル調査)」を 2011 年に開始した[2)]。「エコチル調査」は、子どもの健康に与える環境要因を解明することを目的とし、「胎児期から小児期にかけての化学物質曝露が、子どもの健康に大きな影響を与えている」ことを中心仮設としている。全国で 10 万組の親子を対象とした出生コーホート調査で、妊娠初期の母親をリクルートし、胎児期から 13 歳になるまで定期的に健康状態を追跡する。

「エコチル調査」は環境省が企画・立案し、独立行政法人国立環境研究所がコアセンターとなって調査を取りまとめ、独立行政法人国立成育医療研究センターがメディカルサポートセンターとして医療面のサポートを実施する（図 1）[3)]。さらに、公募で選ばれた全国 15 地域ユニットセンターが大学等に設置され、地方自治体や地域の協力医療機関との連携のもと進められる。リクルートは 2011 年 1 月から 3 年間の予定で開始された。3 年間で 10 万人というのは、日本における出生の約 3%に相当し、調査目的に対して統計学的に十分なサンプルサイズとして設定された[2)]。「エコチル調査」は、

図 1

登録された集団（妊婦・子ども）が調査地区を代表するポピュレーション・ベースの研究である。従って、結果的に調査期間中の調査地区における全妊産婦及び出生時の50%以上をカバーすることを目標としている。このため、リクルートは限られた対象地区内で実施される[2)]。

調査の流れを図2[3)]に示す。対象妊婦の登録は妊娠初期に行う。インフォームドコンセントの後に、妊娠初期及び妊娠中期に質問票調査と採血、採尿を実施する。また、分娩出産時には臍帯血、母体血、出生時にはろ紙血、母親の毛髪を採取し、生後1か月には母乳及び児の毛髪を採取する。この間に同意を得られた父親からも血液の採取と質問票調査が実施される。生後6か月から13歳になるまでは半年ごとの質問票調査による子どもの健康状態チェックに加えて、面接調査や環境試料の採取等が計画されている[4)]。採取された検体からは化学物質等の分析を行い、遺伝要因や社会要因（両親の職業、経済状態、教育、住居環境など）、生活習慣要因（食事、運動、睡眠など）も交絡として調整されたうえで、胎児期から小児期にわたる子どもの成長や発達に影響を与える環境要因を統計学的解析により明らかにする。これらの結果は、有害な環境の排除、化学物質に対する感受性に関する遺伝的要因の解明、子どもの疾患の軽減や予防対策に利用され、最終的には化学物質の適切なリスク管理体制の構築につなげることを目標としている。

図2

２．北海道における「エコチル調査」について

北海道ユニットセンターは、北海道大学環境健康科学研究教育センター内に事務局

図3

を設置し、札幌医科大学、旭川医科大学、日本赤十字北海道看護大学の 4 大学が連携して、調査を実施している（図 3)。札幌地区（札幌市北区、豊平区)、旭川地区（旭川市)、北見地区（北見市北見自治区（旧北見市)、置戸町、訓子府町、津別町、美幌町）の 3 地区をサブユニットとし、3 年間で 9000 人の参加を目指す。リクルートは地域の行政における母子健康手帳交付窓口や産科医療機関でリサーチ・コーディネーター(RC)が対象妊婦に声をかけ、調査の説明と同意取得を行っている。その結果、北海道ユニットセンターでは 2011 年のリクルート開始依頼、これまでに 4283 人からエコチル調査への参加同意を取得した(2012 年 12 月 22 日現在)。

３.「エコチル調査」に関する意識調査について

「エコチル調査」の調査対象者に対しては、RC が母子健康手帳交付窓口や産科医療機関で声をかけて参加を促すほか、広報活動として行政主催の母親学級や親子学級、妊婦向けセミナーやイベントで PR 活動を実施してきた。加えて、対象地域内の幼稚園や保育所、児童館、公共施設等の母子保健に関連する施設でのポスター掲示、各種団体の集まりや講演会における PR 活動、新聞取材による記事掲載や WEB ページの公開、フリーペーパーへの広告掲載などによる広告活動を実施してきた。しかし、一般の北海道民へのエコチル調査の認知は決して十分とは言えなかった。そこで、リクルート開始後 1 年となる 2012 年 3 月に、テレビスポット CM、ラジオ CM、新聞広告、情報誌広告、地下鉄駅構内広告など異なる様々な媒体を利用してメディアを用いた集中的な広報活動によるエコチル調査の認知向上を図った。

本論文では、メディア露出前後におけるエコチル調査の認知度およびエコチル調査に対する市民の意識を明らかにし、今後の広報活動を行う際の課題について検討することを目的として実施した意識調査の結果を報告する。

Ⅱ．方法

意識調査は、株式会社北海道新聞社広告局が主体となり、北海道新聞情報研究所が実施した。調査は2回実施され、対象は北海道新聞情報研究所が管理運営するDoshinネットのモニターに登録する2つのパネルで、各回850人である。

1．Doshinネットモニターのパネルについて

Doshinネットモニターは、2011年9月1日から9月20日に北海道新聞紙上ならびに北海道新聞社および道新情報研究所のホームページ上で募集した。モニター要件は北海道に在住する北海道新聞購読者である。応募者4188名の中から、15歳から79歳の男女を住民基本台帳に基づいた性別・年齢構成・居住地[5)]で無作為に割り付け、各850人のパネルを2つ形成している。モニター契約期間は2011年10月1日から2012年9月30日の1年間で、調査1回あたり100円相当のポイントが加算され、謝品（図書券あるいはたまご券）として支払われている。

2．意識調査の実施

1回目と2回目の調査は、異なる2つのパネルを対象とし、登録された対象者に各5

日間回答を受け付けた。1回目の調査は2012年3月13日火曜日15時にWEBアンケートサイトのアドレスを一斉送信し、3月18日日曜日23時まで回答を受け付けた。なお、WEBアンケートサイト送信日である3月13日の朝刊に「エコチル調査」の広告が掲載されている。2回目の調査は2012年4月11日水曜日13時に同じくWEBアンケートサイトのアドレスを一斉送信し、4月15日日曜日23時まで回答を受け付けた。

Ⅲ．結果

１．回収率および回答者の属性

1回目の回収率は79.8%、2回目の回収率79.6%。回答者の男女比、年齢構成、居住地は北海道の一般人口動態構成比をほぼ反映している（表1）。

表１

２．1回目の意識調査の結果

1回目の調査では、意識調査開始当日の朝刊を読んだ510人のうち、掲載されていた「エコチル調査」広告を「確かに見た」のは41.5%、「見たような気がする」26.1%だった。

「エコチル調査」の認知、関心、賛同、参加意欲の集計を表2に示すについて「広告以前から聞いたことがあり内容も知っていた・聞いたことはあったが内容は知らなかった」のは14.4%だったが、広告を見て72.6%が調査について「非常に理解できた・まあ理解できた」と回答した。新聞広告以前からの「エコチル調査」についての認知は男性よりも女性で、年齢別には30代で高かった。地域別には旭川・北見で高く、次

表２

いで札幌だった。また、広告を読んで「とても関心をもった・やや関心をもった」62.2%、調査に「大いに賛同する・まあ賛同する」75.7%だった。「エコチル調査」への関心についても男性よりも女性で高く、年齢が上昇するにつれて高い傾向だった。地域別には旭川・北見で高かった。自分が調査対象者だと仮定した場合への参加意欲（参加したいと「大いに思う・まあ思う」）についても男性よりも女性で高く、年齢が上昇するにつれて高い傾向であり、旭川・北見で高い結果であった。

広告を見た感想として最も多かったのは、「このような新聞広告企画をまた見たい」36.0%、次いで「調査についてもっと知りたい」30.1%だったほか、「まわりの人と話題にした・しようと思った」19.0%、「紙面で紹介されている WEB ページにアクセスした・しようと思った」13.6%、「知人の妊婦さんに教えた・教えようと思った」12.8%だった。「問合せ先に電話した・してみようと思った」のは 1.6%と少なかった。

３．２回目の意識調査の結果

２回目の意識調査の認知、関心、賛同、参加意欲を表 3 に示す。「エコチル調査」を「聞いたことがあり、内容も知っている・聞いたことはあるが、内容は知らない」30.9%、「エコチル調査」に「大いに賛同する・まあ賛同する」73.6%だった。「エコチル調査」についての認知は男性よりも女性で高かったのは 1 回目と同様であったが、年齢別では 20 代の認知が高く次いで 10 代と 30 代だった。地域別には函館で低かったがその他の地域ではほぼ同様であった。「エコチル調査」への賛同は、女性で男性よりも高かった。年齢別には 10 代と 60 代の関心が高く、40 代が低い U 字の傾向がみられた。地域

表 3

差はほとんどなかった。自分が調査対象者だと仮定した場合への参加意欲についても男性よりも女性で高く、年齢別には 10 代と 30 代で高かった。地域別には旭川・北見で高い結果であった。

調査を知ったきっかけで最も多いのは「新聞」60.3%、次いで「テレビ」41.6%、「インターネット」11.0%、「ラジオ」7.7%だった。また、産婦人科 4.8%、保健所 11.0%など「エコチル調査」のリクルート場所をあげた回答もみられた。

認知の差による「エコチル調査」への意識の違いを表 4 に示す。「エコチル調査」への参加意欲は「エコチル調査」の内容を知っている群では「大いに思う・まあ思う」で 92.5%だった。一方で「エコチル調査」を「聞いたことがない、知らない群」では 66.6%と 20 ポイント以上の差があった。「エコチル調査」について知りたいのはその内容が最も多く 67.6%、次いで進捗状況 46.7%、調査の背景 43.1%だった。「「エコチル調査」の内容を知っている」群ではその進捗状況に関心がある一方で、「内容は知らない・「エコチル調査」を知らない」群では、まずは調査の背景そして調査の内容について詳しく知りたいという結果であった。「エコチル調査」に関する講演会やセミナーへの参加希望は「大いに思う・まあ思う」38.9%だった。調査の内容を知っている群では「大いに思う・まあ思う」75.0%だったが、一方調査の「内容は知らない、「エコチル調査」を知らない」群では「大いに思う・まあ思う」は 36.3%に留まった。

表 4

Ⅳ. 考察

1. 意識調査の対象集団について

北海道新聞は全道の世帯数 2,671 に対して 1,147 部を発行、推定読者数は 298 万人で北海道民の半数以上が読んでいると推定される[6]。また、Doshin ネットモニターは、年齢・性、居住地については北海道の構成比に基づいて応募者の中から無作為に抽出されていることから、北海道民を代表するよう工夫されている。一方、応募者は北海道新聞を購読している層に限られ、インターネットにアクセスできる環境にある、等の偏りがある集団である。さらに、応募者は積極的にアンケートに答えることから自己意識表示に強い関心がある、情報に敏感であり、新商品や新サービスに高い関心を持つ「先進的な」層であること予測される。従って、本調査結果は一般的な北海道民の「エコチル調査」への意識を過大評価する可能性がある。

2. 1 回目調査の結果

1 回目は、WEB アンケート開始日の北海道新聞朝刊に掲載された「エコチル調査」の広告を閲覧しながら、調査の認知、理解、関心、賛同、参加意欲、および広告を見ての行動についての意識調査を実施した。平均広告注目率に広告面や段数、白黒かカラー広告か、掲載曜日などの計数を掛けた予測注目率 31.1%に対し[6]、「確かに見た」の 45.1%は予測よりも多くの読者の目にとまったといえた。また、北海道捕新聞朝刊全道版の発行部数 1,130,943 部（2012 年 3 月日本 ABC 協会報告部数）から計算される[5]、広告を「確かに見た」推計人数は約 111 万 3 千人、「確かに見た＋見たような気がする」推計人数は約 175 万 8 千人と推定された。

広告閲覧以前エコチル調査の認知度(「広告以前から聞いたことがあり内容も知って

いた・聞いたことはあったが内容は知らなかった」）は 14.4%であった。認知が女性や 30 代で多かった事は、エコチル調査の対象となりうる集団では、友人・知人に「エコチル調査」に実際に参加している可能性があり、「エコチル調査」について見聞きする可能性が高かったと考えられる。同様の理由で「エコチル調査」対象地域である札幌版や旭川・北見版での認知が対象地域外である函館版や釧路版よりも高かったといえる。一方、63.3%の読者が広告掲載により「エコチル調査」について知ることが可能となり、72.6%の読者が「エコチル調査」について「非常によく理解できた・まあ理解できた」と回答したことからも、新聞広告が「エコチル調査」の認知や理解度の向上に一定の効果があったと言えるだろう。「エコチル調査」への関心や賛同、もしも対象者だと仮定した場合の参加意欲が男性よりも女性に多く、20－30 代に多い点も、自分が当事者となりうる可能性があることで、「エコチル調査」への意識がより高いと考えられる。広告を掲載することは、「エコチル調査」についてもっと良く知りたい、あるいはこのような広告企画をまた見たいと思う、など意識が向上するという点でも、意義があったと言える。

　一方で、個別の意見では調査に否定的な意見もあり、特に「対象でないから関心をもてない」「対象地域ではないので関係ない」「地域からはずれているので興味がない」といったコメントが目立った。「エコチル調査」は国家プロジェクトであり、対象者や対象地域外の全ての道民の意識向上が必要と考えられる。新聞広告のような、むしろ調査対象とならない多くの読者層への「エコチル調査」に対する意識向上を目指すためには、記載内容は調査の対象者や対象地域といった限定された情報よりもむしろ、

調査の背景や意義などを示すことが重要であると感じた。

3. 2回目調査の結果

1回目の意識調査が実施された2012年3月13日から、当該新聞広告をはじめラジオやテレビスポットCM、テレビやラジオ情報番組での「エコチル調査」PR、地域情報雑誌やフリーペーパーへの広告掲載、札幌市交通局地下鉄駅ポスター掲示などの多様な広告活動を集中して実施した。その結果、「エコチル調査」の認知度（聞いたことがあり内容も知っている、および聞いたことはある）は1回目の14.4%から30.9%へと向上した。また、もともと男性と比べて認知度が高かった女性のみに限っても認知度は16.2%から37.7%と向上し、特に20代では10.5%から51.5%と大幅に向上した。「エコチル調査」を知るきっかけとしては新聞およびテレビの影響がそれぞれ60.3%、41.6%とマスメディアの影響は大きく、特に50歳以上では新聞が80.0%以上と大きかった。一方20代では交通広告が14.7%、40代ではインターネットが20.0%と多いなど、年代ごとの生活スタイルや活動様式による違いがあることから、様々な異なる媒体を用いることで複合的に「エコチル調査」の認知向上が図れるといえる。「エコチル調査」への賛同や関心についてのポイント自体は1回目と2回目の意識調査で大きな差はなかったが、20代だけでみると「とても関心がある、およびやや関心がある」が55.2%から68.2%と高くなった。さらに「エコチル調査」に「大いに賛同する」が60歳以上で44.9%と高くなったことは、自分たちの娘・息子が調査対象となる世代であったからではないか。北海道ユニットセンターの「エコチル調査」への参加同意率は70%程度で

ある。今回の意識調査では、自分が対象者であると仮定した場合の参加意欲（大いに思う・まあ思う）は1回目69.8%、2回目67.8%であったことから、現在の同意率は妥当と考えられる。一方、参加意欲は札幌版（1回目64.2%、2回目68.9%）よりも旭川・北見版（1回目76.0%、2回目75.0%）の方が高いことから、今後の旭川地区および北見地区の参加者数増に期待したい。

「エコチル調査」への賛同、関心および参加意欲の全てにおいて、「エコチル調査について内容も知っている」群では85%以上であった。今後のエコチル調査への意識向上に当たっては、まずは第一段階として「エコチル調査」について知ってもらうことの重要性が明らかになった。一方「エコチル調査」の内容を知っている群では、「調査の進捗状況について知りたい」「調査参加者の声が聞きたい」など、その進行状況についての公開を期待していることから、今後の広報活動としては、得られた成果を講演会の開催などにより開示していくことで、エコチル調査への持続的に関心を保つための課題といえる。

Ⅴ．おわりに

「エコチル調査」は、リクルートに3年間、その後産まれた赤ちゃんが13歳になるまで追跡する、長期にわたる出生コーホート研究である。北海道では、人口190万人の大都市圏である札幌市、35万人の中堅地方都市である旭川市、農業・林業・漁業を基幹産業とする北見市およびその近郊で対象者のリクルートを実施している。2012年12月末までのリクルート者数は3年間9000人を目標とした場合に必要な達成ライン

を下回っている。3つのサブユニット間の距離が離れており調査地域が広域にわたる、医系大学が3つしかなく産科医療スタッフが慢性的に不足している、冬季間は積雪のため移動に時間がかかる、等の北海道ユニットセンター特有の特徴による困難はあるが、今後はより効果的な広報活動の実施により、一人でも多くの道民に「エコチル調査」に関心を持ってもらえるように取り組んでいきたい。

「エコチル調査」に関するお問い合わせは、北海道ユニットセンター事務局（北海道大学　環境健康科学研究教育センター内）電話 011-706-4747、Fax011-706-4725、E-mail ec-hokkaido@cehs.hokudai.ac.jp まで。また、環境省「エコチル調査」ウェブ http://www.env.go.jp/、北海道ユニットセンター事務局ウェブ www.cehs.hokudai.ac.jp/ecochil/でも情報を公開している。

謝　辞

第一に、意識調査にご協力頂いた Doshin ネットのモニターの皆様に御礼申し上げます。また、これまでに「エコチル調査」へのリクルートに同意頂いたすべての皆様に感謝いたします。さらに、エコチル調査の実施にあたり多大なるご理解とご協力を頂いている各地区の自治体行政の皆様、医療機関の皆様にこの場を借りて深謝致します。

利益相反（Conflict of interest）

なし

Ⅵ. 文献

1) 岸玲子. スタートする「環境省エコチル調査」とその先駆け的研究モデルとなった「北海道スタディ」について：これまでの成果と今後の課題. 北海道の公衆衛生. 2011；**37**：37-41

2) 独立行政法人国立環境研究所　子どもの健康と環境に関する全国調査コアセンター. 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書 2012 年 7 月 23 日[Web page].環境省「エコチル調査」ウェブサイト http://www.env.go.jp/chemi/ceh/outline/data/kenkyukeikaku121.pdf

3) 環境省　子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)　調査の概要;[Web page].環境省「エコチル調査」ウェブサイト http://www.env.go.jp/chemi/ceh/outline/index.html

4) 環境省　エコチル WG 基本設計班. 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査）基本計画. 2010; [Web page].環境省「エコチル調査」ウェブサイト http://www.env.go.jp/chemi/ceh/outline/data/kihonkeikaku.pdf.

5) 北海道総合政策部地域行政局市町村課. 北海道の市町村、男女、年齢 5 歳階級別人口　（平成 23 年 3 月 31 日現在）ウェブサイト http://www.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=393850

6) 北海道新聞社　広告局. 北海道新聞 2012　媒体資料. 北海道新聞社広告局: 札幌市、北海道. ウェブサイト

1 http://adv.hokkaido-np.co.jp/media/mediainfo2012/index.html

表１　対象者の属性

		1回目		2回目		北海道全体[a]	
		n	%	n	%	n(千人)	(%)
性別	男性	345	50.9	333	49.5	2,619	47.4
	女性	333	49.1	342	50.5	2,902	52.6
年代	10代	14	2.1	17	2.5	258	5.7
	20代	67	9.9	66	9.7	568	12.6
	30代	148	21.8	145	21.4	746	16.6
	40代	144	21.2	144	21.3	705	15.7
	50代	155	22.9	149	22.0	787	17.6
	60歳以上	150	22.1	156	23.0	1,418	31.2
未既婚	未婚	128	18.9	138	20.4		
	既婚	550	81.1	539	79.6		
広告版	札幌本社版	430	63.4	418	61.7	3,385	61.5
	函館版	57	8.4	54	8.0	473	8.6
	旭川・北見版	108	15.9	120	17.7	957	17.4
	釧路版	83	12.2	85	12.6	685	12.5
地域別	札幌市	247	36.4	244	36.0		
	石狩管内	59	8.7	54	8.0		
	後志・空知管内	63	9.3	67	9.9		
	胆振・日高管内	63	9.3	58	8.6		
	渡島・檜山管内	57	8.4	54	8.0		
	上川・留萌・宗谷管内	77	11.4	81	12.0		
	十勝・網走・釧路・根室管内	112	16.5	119	17.6		
職業	役員・管理職	44	6.5	46	6.8		
	事務職	87	12.8	71	10.5		
	専門・技術職	95	14.0	99	14.6		
	生産・販売など	22	3.2	30	4.4		
	商工自営・自由業	46	6.8	37	5.5		
	農林水産業	5	0.7	7	1.0		
	パート・アルバイト	89	13.1	97	14.3		
	学生	26	3.8	30	4.4		
	専業主婦	178	26.3	176	26.0		
	無職	86	12.7	84	12.4		
年収	300万未満	91	13.4	107	15.8		
	300-400万未満	114	16.8	125	18.5		
	400-500万未満	105	15.5	118	17.4		
	500-600万未満	121	17.8	113	16.7		
	600-800万未満	150	22.1	130	19.2		
	800-1000万未満	65	9.6	62	9.2		
	1000-1500万未満	23	3.4	13	1.9		
	1500万以上	9	1.3	9	1.3		

a, 北海道の市町村、男女、年齢５歳階級別人口　(平成 23 年 3 月 31 日現在)、北海道総合政策部地域行政局市町村課

表２　意識調査１回目集計　「エコチル調査」の認知、関心、賛同、参加意欲

	全体		性別(%)		年代別(%)						広告版別(%)			
	n	%	男性	女性	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳以上	札幌本社版	函館版	旭川・北見版	釧路版
「エコチル調査」を知っていたか														
今回の新聞広告以前から聞いたことがあり、内容も知っていた	38	5.6	3.2	8.1	7.1	1.5	12.2	8.3	1.9	2.0	4.7	1.8	13.9	2.4
今回の新聞広告以前から聞いたことがあるが、内容は知らなかった	60	8.8	9.6	8.1	7.1	9.0	14.2	6.9	6.5	8.0	8.6	7.0	10.2	9.6
今回の新聞広告を見て初めて知った	429	63.3	61.4	65.2	64.3	53.7	48	59.7	74.8	74.0	61.6	75.4	61.1	66.3
聞いたことはない・知らない	151	22.2	25.8	18.6	21.4	35.8	25.7	25	16.8	16.0	25.1	15.8	14.8	21.7
広告を見て「エコチル調査」に関心を持ったか														
とても関心を持った・やや関心を持った	422	62.2	54.7	70.0	50.0	55.2	60.8	57.6	61.3	73.3	58.6	68.4	72.2	63.9
どちらとも言えない	119	17.6	19.1	15.9	7.1	16.4	20.9	18.1	20.6	12.0	18.6	17.5	13.9	16.9
あまり関心を持たなかった・全く関心を持たなかった	132	19.4	25.5	13.2	42.8	26.9	16.9	24.4	17.4	14.0	22.1	12.3	12.9	19.3
無回答	5	0.7	0.6	0.9	0.0	1.5	1.4	0.0	0.6	0.7	0.7	1.8	0.9	0.0
あなたは「エコチル調査」に賛同するか														
大いに賛同する・まあ賛同する	513	75.7	68.7	82.9	64.3	70.2	77.7	68.1	77.5	82.7	74.5	79.0	80.6	73.5
どちらとも言えない	133	19.6	23.5	15.6	21.4	28.4	15.5	25.7	20.0	13.3	21.2	10.5	16.7	21.7
あまり賛同しない・全く賛同しない	24	3.5	6.1	0.9	14.2	1.5	5.4	5.6	2.6	0.7	3.5	8.8	1.9	2.4
無回答	8	1.2	1.7	0.6	0.0	0.0	1.4	0.7	0.0	3.3	0.9	1.8	0.9	2.4
もし自分が「エコチル調査」の対象者であると仮定した場合、調査に参加するか														
大いに思う・まあ思う	460	67.8	58.6	77.5	50.0	52.2	71.6	61.1	72.9	74.0	64.2	75.5	76.0	71.1
どちらとも言えない	156	23.0	27.5	18.3	42.9	35.8	20.3	24.3	20.6	19.3	25.1	15.8	18.5	22.9
あまり思わない・全く思わない	58	8.6	13.6	3.3	7.1	10.4	8.2	13.9	6.5	5.4	9.8	8.8	5.5	6.0
無回答	4	0.6	0.3	0.9	0.0	1.5	0.0	0.7	0.0	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0

表 3　意識調査 2 回目集計　「エコチル調査」の認知、賛同、参加意欲

	全体		性別(%)		年代別(%)						広告版別(%)			
	n	%	男性	女性	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳以上	札幌本社版	函館版	旭川・北見版	釧路版
「エコチル調査」を知っていたか														
聞いたことがあり、内容も知っている	40	5.9	3.9	7.9	5.9	9.1	7.6	4.2	4.7	5.8	6.2	1.9	6.7	5.9
聞いたことがあるが、内容は知らない	169	25.0	20.0	29.8	29.4	42.4	28.3	20.1	16.8	26.3	24.6	33.3	29.2	15.3
聞いたことはない・知らない	466	68.8	75.8	62.0	64.7	48.5	62.8	75.7	78.5	67.9	68.7	64.8	64.2	78.8
無回答	2	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
「エコチル調査」に関心を持ったか														
とても関心を持った・やや関心を持った	413	61.0	54.6	67.3	64.7	68.2	62.8	53.5	59.1	64.8	60.0	66.7	60.8	62.3
どちらとも言えない	203	30.0	36.1	24.0	29.4	25.8	28.3	37.5	28.9	27.6	30.4	27.8	31.7	27.1
あまり関心を持たなかった・全く関心を持たなかった	58	8.6	8.4	8.8	5.9	6.0	7.6	9.1	11.5	7.7	9.3	5.6	6.7	9.4
無回答	3	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0
あなたは「エコチル調査」に賛同するか														
大いに賛同する・まあ賛同する	498	73.6	68.1	78.9	88.3	74.3	76.6	63.2	73.2	88.9	73.2	79.6	73.4	71.7
どちらとも言えない	159	23.5	28.7	18.4	11.8	22.7	22.1	32.6	22.8	18.6	23.9	16.7	23.3	25.9
あまり賛同しない・全く賛同しない	12	1.8	1.8	1.8	0.0	1.5	0.0	4.2	2.6	0.6	1.7	3.7	1.7	1.2
無回答	8	1.2	0.5	0.9	0.0	1.5	1.4	0.0	1.3	1.9	1.2	0.0	1.7	1.2
もし自分が「エコチル調査」の対象者であると仮定した場合、調査に参加するか														
大いに思う・まあ思う	473	69.8	66	73.7	76.4	62.1	76.5	63.9	68.5	73.0	68.9	66.6	75.0	69.4
どちらとも言えない	170	25.1	28.7	21.6	23.5	30.3	21.4	29.2	24.2	23.7	26.1	27.8	20.0	25.9
あまり思わない・全く思わない	30	4.4	4.2	4.7	0.0	6.0	1.4	6.3	7.4	2.6	4.5	5.6	4.1	3.6
無回答	4	0.6	1.2	0.0	0.0	1.5	0.7	0.7	0.0	0.6	0.5	0.0	0.8	1.2

表 4　意識調査 2 回目　「エコチル調査」の認知の違いによる意識

	全体		調査の認知		
	n	(%)	調査内容を知っている(%)	調査について聞いたことはある(%)	知らない(%)
もし自分が「エコチル調査」の対象者であると仮定した場合、調査に参加するか					
大いに思う・まあ思う	473	69.8	92.5	74.0	66.6
どちらとも言えない	170	25.1	7.5	20.7	28.3
あまり思わない・全く思わない	30	4.4	0.0	4.8	4.7
無回答	4	0.6	0.0	0.6	0.4
エコチル調査についてどんなことが知りたいか【複数回答）					
調査についてもっと詳しく知りたい	279	67.6	58.8	69.6	67.6
調査の進捗状況について知りたい	193	46.7	73.5	45.5	44.0
調査に協力している人の話を聞きたい	106	25.7	32.4	35.9	24.8
調査が開始された背景について知りたい	178	43.1	26.5	41.1	46.2
その他	4	1.0	0.0	0.9	1.1
無回答	3	0.7	0.0	0.9	0.8
エコチル調査に関する講演会やセミナーがあれば参加したいか					
大いに思う・まあ思う	263	38.9	75.0	40.2	35.4
どちらとも言えない	230	34.0	15.0	32.5	36.3
あまり思わない・全く思わない	180	26.6	10.0	26.0	27.9
無回答	4	0.6	0.0	1.2	0.4

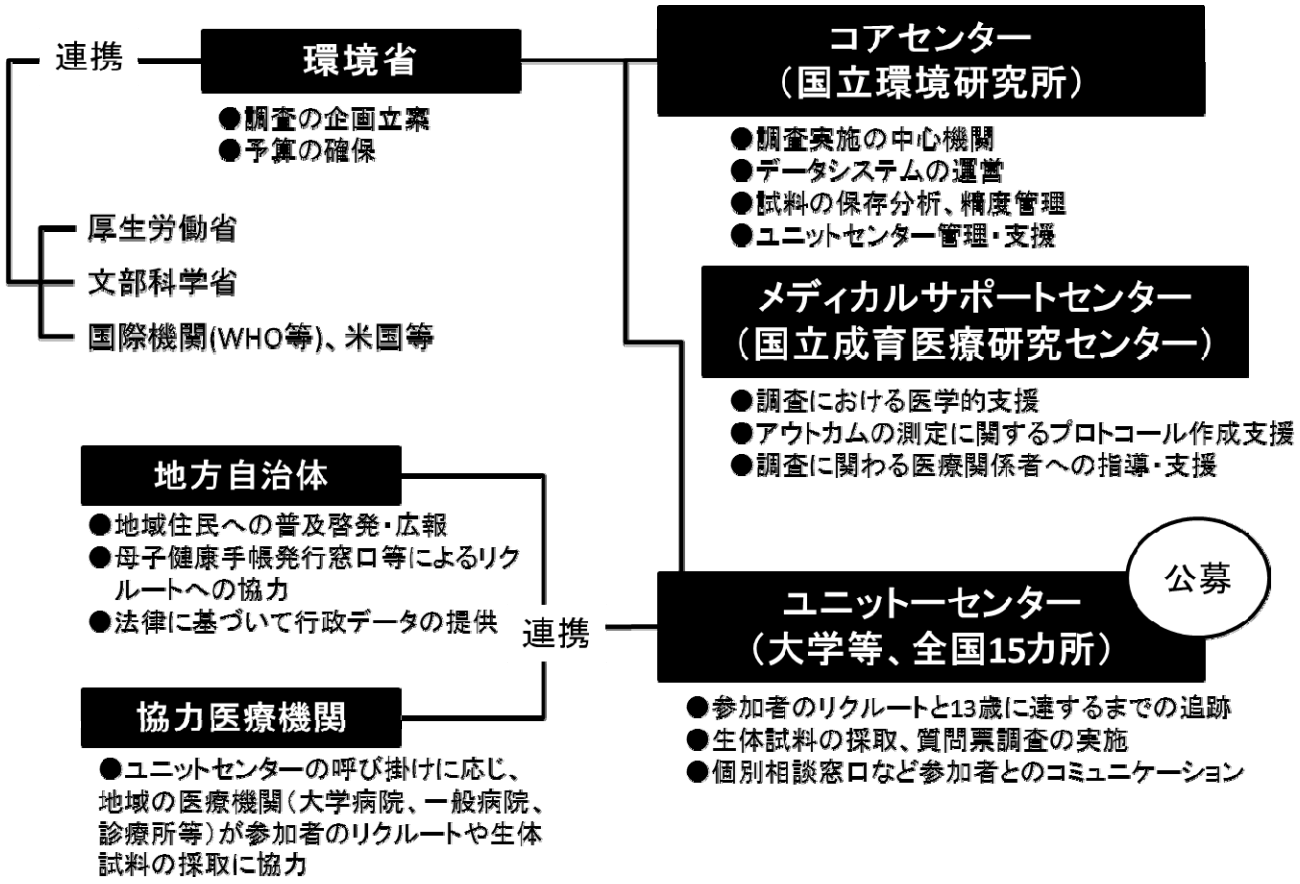


図１　エコチル調査の実施体制（エコチル調査 WEB ページを改変）

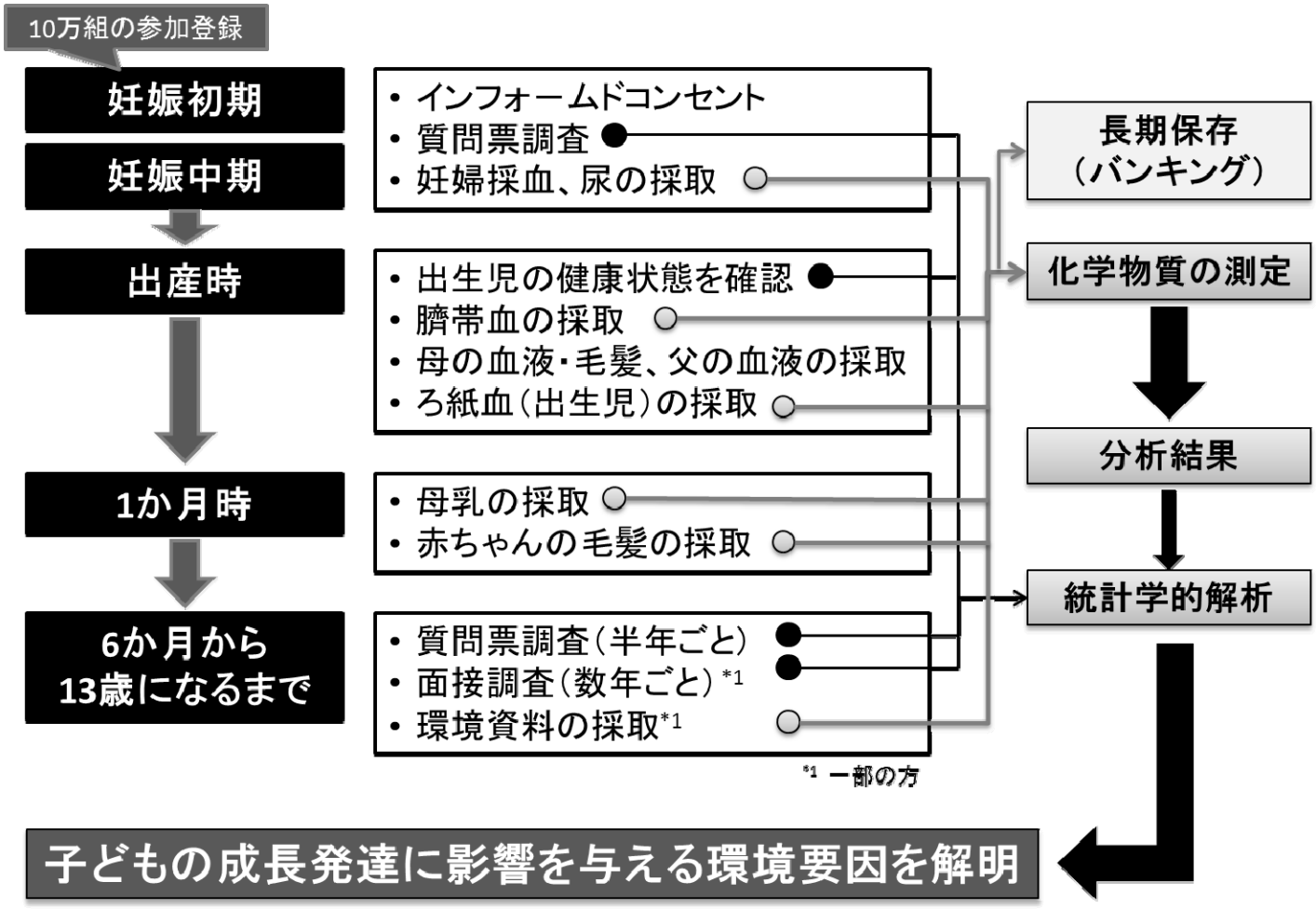
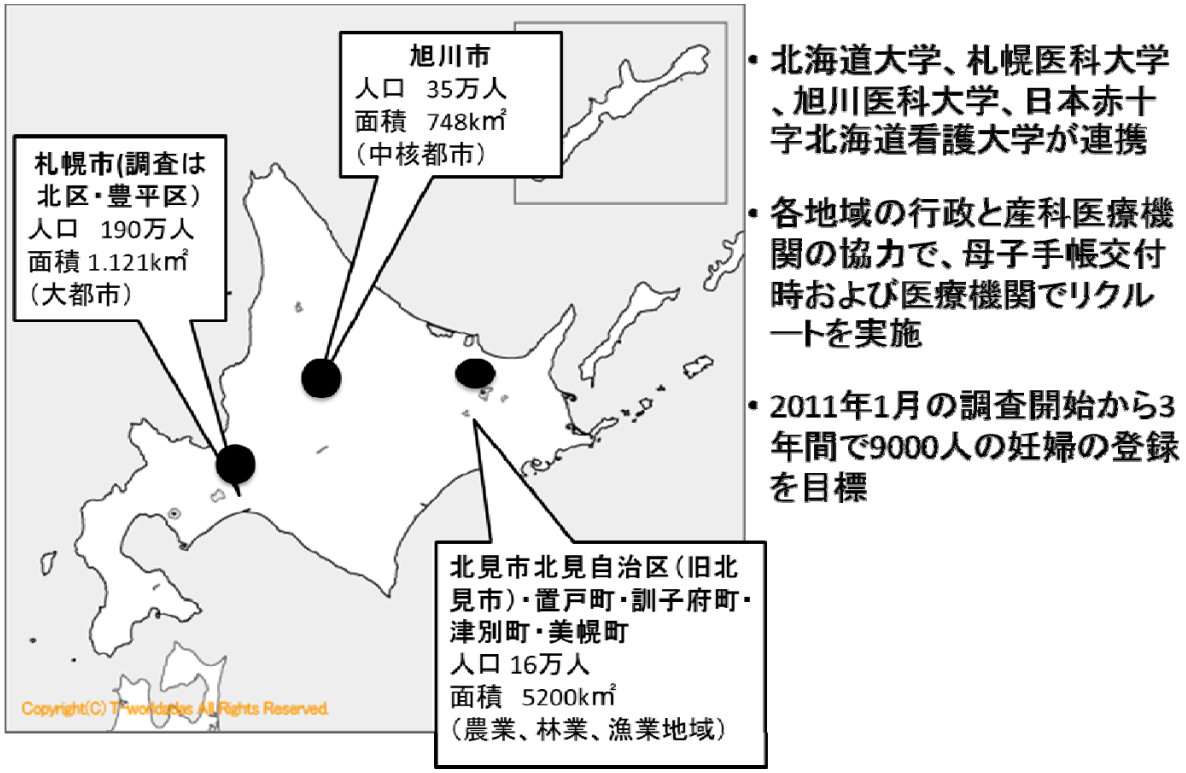


図２　エコチル調査の流れ（エコチル調査 WEB ページを改変）



- 北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学、日本赤十字北海道看護大学が連携
- 各地域の行政と産科医療機関の協力で、母子手帳交付時および医療機関でリクルートを実施
- 2011年1月の調査開始から3年間で9000人の妊婦の登録を目標

図３　北海道ユニットセンターのリクルート